



## 令和元年度 第2回国有林材供給調整検討委員会を開催 ～現時点での供給調整は要しないとの検討結果～



遠藤日雄委員長を座長に検討会の様子

9月17日に、本年度第2回目「国有林材供給調整検討委員会」を開きました。

各委員がそれぞれの専門分野からの意見を述べあい、「現時点での供給調整は要しない」との検討結果となりました。

また、輸入合板の在庫が減っ

各委員からの主な意見は次のとおりです。

○合板の市況は堅調。全国的に合板不足が5年も続いてきたが、4月頃から少し落ち着き感が出てきたと思っている。総着工戸数が昨年より低く推移する中で、九州の木造着工戸数についてはむしろプラスで推移しており、合板の不足感があったが、新しい工場が出来た安心感からか仮需が無くなったという感じがしている。

○製紙業界は昨年、新聞紙や印刷用紙の減などにより非常に厳しい状態であったが、現在、各種対策を立て順調に推移している状況にある。

輸出用丸太については為替と中国の動向により八代方面も港着で8千5百円(ノm3、以下同じ)で買っていたものが、7千円半ば、これ以上円高が進むと6千円代に突入するとの話もある。量についても、6月頃までは順調に行っていたが、今後の動向次第では半分位になるのではという話もある。

○持ち家の着工戸数の数字を見ると決して悪くないが、問題は貸家のほうで、ここ何年か先食いしてしまったのかと言う気がしている。持ち家の分と貸家の分が相殺されて何となく消費税の動きとしてあまり感じられないのかなという気もしている。

大手住宅メーカーの受注は堅調であるが、中小の工務店の受注は全体的にみると差が出ているという気がしている。

○A材B材は高値で推移しているが、C材が宮崎県でも9千円から、7千円くらいまで下がっ

ている状況を国産材合板がしっかりカバーしており、今後更に国産合板比率が大きくなっていくと思っている。

○製紙業界は昨年、新聞紙や印刷用紙の減などにより非常に厳しい状態であったが、現在、各種対策を立て順調に推移している状況にある。

輸出用丸太については為替と中国の動向により八代方面も港着で8千5百円(ノm3、以下同じ)で買っていたものが、7千円半ば、これ以上円高が進むと6千円代に突入するとの話もある。量についても、6月頃までは順調に行っていたが、今後の動向次第では半分位になるのではという話もある。

○持ち家の着工戸数の数字を見ると決して悪くないが、問題は貸家のほうで、ここ何年か先食いしてしまったのかと言う気がしている。持ち家の分と貸家の分が相殺されて何となく消費税の動きとしてあまり感じられないのかなという気もしている。

大手住宅メーカーの受注は堅調であるが、中小の工務店の受注は全体的にみると差が出ているという気がしている。

○A材B材は高値で推移しているが、C材が宮崎県でも9千円から、7千円くらいまで下がっ



座長を務める遠藤日雄委員長

てきた。今まで一番価格が安定していたC材が暴落している。今までC材が9千円以下になることには無かったが、万が一今後製品の利益が減って出材増があればC材が8千円台、直材が1万円そこそこという風になって、木材業界全体が疲弊していくようなことになっていくんじゃないかと危惧している。

乾燥機を持たない中小製材所が倒産するとか廃業するとか聞こえ始めている。

○B材C材の需要拡大により、簡易な山土場選別で工場直送が可能になり、市場の取り扱ひ量が大幅に減少している。市場も素材生産や森林整備への取組の外、川上と川下のコーディネーター的な役割を担う等大きく変化していかなくてはならないという岐路に立たされている。





別室でのウェブ中継の様子

大径材の中国向け輸出は一つの大きな販売チャンネルだったが、これが止り大径木の販売に苦勞し始めている。小径材についても輸出向けが行き場を失い、一気にバイオマス用として増えてきている。

○環境への配慮にしても労働安全の確保や労働条件にしてもそれをクリアして木材を安定的に供給するという、当たり前のことのハードルが従来とは違った形で年を追う毎にどんどん高くなって来ていると感じる。

例えば森林環境税により森林整備をしようとする「重機（フォワーダ）集材は環境税を使って環境を破壊しているじゃないか」などと言われかねない。一般の人から見ると、我々が当たり前と思っていることが当たり前じゃないと思うかも知れない。

○傘下森林組合の素材生産量が5年前の倍近くと、大き伸びている。また、5年前は主伐材より間伐材が多かったが、平成30年度は全体の75%が主伐材、残りの25%が間伐材となっている。木材生産量は増えているが市場の取り扱いは5月頃に比べると輸出向けは5月頃に比べると非常に買い気が無くなり、現在は価格が当初より2千円程度下がり、バイオマス用の価格に近い価格になってしまっている。

※本検討委員会は、九州森林管理局HPのキーワード・木材の供給情報・その他の情報・九州森林管理局国有林材供給調整検討委員会の検討結果等について「から」ご覧になれます。

（担当）地域木材情報分析官

## 協定に基づく九州大学との合同調査を実施

【熊本森林管理署】九州森林管理局では、森林の多面的機能の発揮、林業の成長産業化の実現に向けて、九州・沖縄地方で林業系の専門コースを有する5大学と連携と協力に関する協定を平成29年度に締結しています。

当署では、この協定に基づき9月11日に九州大学と連携して局が所有する森林3次元計測システム（OWL（アウル））等の地



現地調査の様子

果、胸高直径については手計測とほとんど違いがないこと、立木本数の多くが頂端部を視認することが困難な林分ではレーザーが枝葉に遮られ頂端部付近を認識できず、手計測よりも低樹高となってしまうことがあること等が確認されましたが、レーザー計測による森林資源の把握としては有効であることが確認できました。

当署としては、引き続き大径材や研究機関等と連携・協力しながら、レーザー計測による森林資源の把握などのスマート林業の推進に努めていく考えです。

## 地拵え・下刈機械の実演会を開催

【宮崎南部森林管理署】9月20日に当署小八重国有林100林班で地拵え・下刈機械の実演会が開催されました。

この実演会は、南那珂森林組合が主催し、福岡県の機械メーカーが開発した造林作業機械のデモンストラーションを行ったものです。会場には林野庁の担当官や宮崎県、鹿児島県内の林業関係者約120人が参集し、小雨の中、熱心に見学していました。

今回実演を行った機械の特徴

は、乗用タイプの下刈作業機と根株の破碎装置をセットにしたものであり、今後の地拵え・下刈作業の労働過重の軽減が期待されるそうです。

参加者からは、メーカー希望価格1400万円にとよめきを上げる一方「破碎機の刃の値段、耐用年数はどのくらいか」「どのくらいの傾斜まで作業が可能か」などの質問があり、下刈作業の省力化に苦心され、改善策を模索している参加者の様子が手に取るように分かった実演会でした。

当署は今後とも、生産部門に比べて遅れている造林部門の機械化が進み、若者たちが少しでも快適に作業できる環境創りに民・国連携した取組みを推進していきます。



造林作業機械のデモンストラーションの様子



# 綾川流域照葉樹林帯保護・復元計画第30回連携会議を開催

## 「事業報告及び事業計画等を審議・承認」

8月21日、宮崎県綾町の綾コネスコエコパークセンターにおいて、協定5者の代表者が出席し第30回連携会議が開かれました。

会議の冒頭、今年6月に就任された綾町長舛田学氏より「綾町は自然を守りながら、農業・観光を重視している町です。優先的に自然を守り、綾にふさわしい事業をこれからも進めていかなければなりません。これから積極的に参加させて頂き、綾の自然・照葉樹林を守っていきたいと思いますのでご協力をお願いします」との挨拶があり、事務局による座長選出などが行われ、議事の審議に入りました。

議事では、平成30年度の事業報告及び令和元年度事業計画（案）、公開フォーラム「綾照葉樹林の生物多様性と恵み」の共催について審議が行われ、出席者からの意見等を反映させ修正を加えることで、各議案と

もに承認されました。

続いて、事務局活動経費に係る決算の報告、質疑・意見交換が行われ、意見交換では「イベント企画の際は、地域住民、特に若い世代が積極的に参加できるものにしてほしい」「綾プロが中核となっているコネスコエコパークを地図に表記させる働きかけを」などの意見も出され、活発な意見交換となりました。



会議の様子

最後に、綾プロ連携会議石田達也会長より「綾プロも15年経ち、時代の変化の中で一番良いやり方を模索していかなければなりません。持続可能な運営が一つの命題としてあり、今年度の論議を来年度以降の計画に反映させたいと思いますので、よろしくお願いします」との挨拶があり、連携会議を終了しました。

※綾川流域照葉樹林帯保護・復元計画（通称：綾の照葉樹林プロジェクト／略称：綾プロ）

宮崎県綾川流域に残された、日本最大級の原生的な照葉樹林を保護するとともに、二次林・人工林を照葉樹林に復元するため九州森林管理局・宮崎県・綾町・（公財）日本自然保護協会、（一社）てるはの森の会の5者が協定書を締結し、協働して保護・復元に取り組む計画（担当：計画課）

## 森林保護員による保全活動（後期）がスタート

【大分森林管理署・大分西部森林管理署】9月19日、大分県九重町の牧の戸峠（標高約1,300m）において、令和元年度後期（9月19日～11月29日）森林保護員による保全活動の出発



## 森林保護員への辞令交付の様子

祝日）、久住山、大船山などの標高1700mを超えるくじゅう山地域の国有林を対象として活動することになります。

つづいて、両森林管理署を代表して、益田署長から「登山マナーを守って自然とふれあっていたることが重要。森林保護員の皆様も、気象の変化や足下に注意して安全に活動を。来年8月には山の日記念全国大会が開催されると聞いている。パトロールを通じて山の状況を把握しながら、来年には多くの方をお迎えしたい」と挨拶を述べました。

この日、任命を受けた森林保護員の皆さんは出発式を終え、早速、初秋のくじゅうの自然を楽しみに訪れた登山者にチラシを配布し、登山マナーアップの協力を呼びかけました。これから、くじゅう連山は一日一日鮮やかな赤や黄色に染まり、訪れる登山者を楽しませてくれます。

この大自然を満喫していただくために、この保全活動を通じて一人一人が満足いただけるよう取り組みます。

式を行いました。

はじめに、坂本和隆大分森林管理署長から5名、益田健太大分西部森林管理署長から4名の森林保護員に辞令が交付され、秋の紅葉シーズンを多くの登山者に安全に楽しんでいただくために保全活動を実施します。この保全活動の内容は、登山マナーの啓発、標識、登山道施設の状況把握と簡易な補修などを実施し、森林保護員は、11月末までの約2か月間（土曜日、日曜日、



# ナイストライ事業で国有林の職場を体験 中学2年生を職場体験学習で受入れ

当局では、9月25日から27日にかけて熊本市立京陵中学校から依頼を受け、「ナイストライ事業」(注1)による中学2年生5人を受け入れ、国有林及び九州森林管理局の業務について職場体験学習を行いました。



国有林ってどんな仕事？

今回の職場体験では、初日に総務課篠村和希課長補佐から国有林及び当局の業務内容の説明を受けた後、収穫調査の方法や調査器具の説明、測量業務について、甲斐孝生広報主任官より

講義を受け、広報業務について体験学習しました。

2日目は、九州森林管理局構内において村上國男企画官の指導のもと、GPS操作の実習をした後、監物台樹木園に移動し、昨日学習した収穫調査器具を使用して、胸高直径・樹高の計測を体験しました。特に、バーテックスを使用した測樹に興味を示し何度もチャレンジしていました。

その後、樹木園内の「みどりの交流館」において、樹木図鑑の使い方や、シカの被害について「シカカード」を教材に用いて学び、森林教室の進め方につ



バーテックスって便利だなー

いて学習しました。

3日目は、3日間の振り返りや、学習したことをまとめる作業を行い、原稿作成にチャレンジ、生徒たちは、四苦八苦しながらも、「広報誌ナイストライ」を作成し、3日間の職場体験学習を終了しました。

3日間を振り返り「コンパスや、輪尺・バーテックスなどを使った実習は楽しく大変勉強になった」「優しく迎え入れていただき国有林の組織や仕事内容などいろいろ教えてもらった」「職場体験から将来の事を考えて勉強を頑張りたい」などのコ



「広報誌 ナイストライ」を作成する生徒

メントがあり、貴重な体験を提供できた職場体験学習となりました。

(注1)「ナイストライ事業」とは、熊本市教育委員会が中学2年生の体験学習として実施するもので、実際の職場で学習する体験のない生徒たちに、働くことの意義や役割を理解し、望ましい職業観・勤務観を育成することなどを目的に行われている事業です。

(担当)総務課

## 安全パトロール・安全指導会議を開催

【北薩森林管理署】当署管内の請負事業による労働災害が昨年度末から多発していることから、何とか多発する災害を断ち切り、安全・安心の事業体になっていただきたい願いを込めて、資源活用課、川内労働基準監督署、林業・木材製造業労働災害防止協会鹿児島県支部、九州国有林林業生産協会と連携し、管内で対象に9月2日から3日にか

て安全パトロールと安全指導会議を実施しました。

初日は、伐倒及び造材作業中の二つの事業体の安全パトロールを実施し、特に伐倒した木の受け口やツルの状態等を確認し、伐根を見ながら受け口の良し悪しやクサビの使用について基準に沿って適正に行うこと、また、安全な場所へ確実な退避を行うことなどを改めて参加機関より指導しました。

二日目は、事業体の代表取締役や現場代理人、事業の監督職員を対象に、川内労働基準監督署、局、署から安全に対する講話を行った後、4班に分かれて「伐倒作業時の安全確保対策」と「林業機械の森林作業道走行時の安全確保対策」について、グループ討議を行い、とりま



伐根を確認し、細かな指導を受ける



め発表していただきました。討議をおおして各事業体が実施している安全対策への気付きや発表した対策等を全員で共有することで、安全に対する意識がさらに高まり、現場での実践・継続につながることを願うばかりです。

## 熊本林業土木協会宮崎支部が安全パトロールを実施

【宮崎南部森林管理署】9月10日、串間市の広野2039林道新設工事現場において（一社）

熊本林業土木協会宮崎支部（永野建設株）・（有）高橋建設・大平開発（株）主催による安全パトロールが開催されました。

当パトロールには日南労働基準監督署の労働基準監督官も参加し、通勤路、施工現場、現場事務所等のチェックが行われました。

現場パトロールの後は宮崎南部森林管理署に会場を移し、パトロール結果講評、意見交換会を行い、その後労働基準監督官から建設業・林業における労働

災害の推移や各種法令改正等の説明があり、非常に有意義な安全パトロールとなりました。



現地安全パトロールの様子

## 耳川フェスティバルで森林の役割をPR

【宮崎北部森林管理署】8月23日、美郷町の石峠レイクランドにおいて、「第8回耳川フェスティバルin美郷」が開催され、夏休みの期間でもあったことから、多くの子供や親子連れの方々が訪れました。

この耳川フェスティバルは、平成17年の台風14号により耳川流域で土砂に起因する甚大な被害が発生したため、森林（もり）



紙芝居「森林からの贈り物」



私は谷村新司のシングル曲「昴（すばる）」が大好きです。これは、偶然を相手に様々な活動に携わる事ができる環境にあり、8月には宇土半島において、2500キロ以上の驚異の飛行を遂げるという「アサギマダラ」という蝶に遭遇し、9月には、産山村のヒゴタイ公園で、「幸せを呼ぶ青いハチ」と言わ

れる「ブルー・ピー」を見つけ、鳥肌が立つ程の感動を憶えました。このように希少な生物に極々身近で巡り合えるという事は、何と偉大で素晴らしい事でしょう。近年において、地球規模で問題視されている「アマゾン森林破壊」は、草本・木本一つ一つが関連しています。日本の国土の7割が森林でありながら、実感が乏しいのが現実だと思っています。

## 「森と人を繋ぐとは??」

模で問題視されている「アマゾン森林破壊」は、草本・木本一つ一つが関連しています。日本の国土の7割が森林でありながら、実感が乏しいのが現実だと思っています。

清々しい事か。これは、草本・木本の働きが、爽やかな空間をつくり出してくれているのだと感じました。

私は今、「水文学」を学びながら、降水、河川、

その後、子供たちに森林について興味を持ってもらえるように「翼を持った種類の模型キット」と「山学校みどりの

中学生の理科で学ぶ気孔の働きと構造でもわかるように、あの小さな一枚の葉の持つ役割もとても大きく偉大なものなのです。森林のある沢沿いを案内した時、何と爽やかで私ごとき小さな人間に何ができるのかわかりませんが、「昴」のごとく、宇宙環境をも考え合わせながら、私なりに、イメー等、森林の役割や大切さについて来場者の方々にPRしました。子供たちは最後まで興味深そうに聞き入り、クイズにも元気に答えていました。

（あきぎ町在住）



教科書」を配布したところ、自分たちで作った種の模型を飛ばし、元気に駆け回っていました。最後に子供たちから、楽しく森林のことを勉強できましたとお礼の言葉があり、耳川フェスティバルを終了しました。



「山学校みどりの教科書」を配布

## シオジ原生林で 森林教室を実施

【大分西部森林管理署】9月4日、日田市前津江町の権現岳国有林で、地元の日田市立前津江小学校と「水の姉妹校」である福岡市立堅粕小学校6年生の児童32名と先生や保護者の方々が参加して、森林教室を行いました。

筑後川の源流域と下流の消費地に位置する両校は、以前から

児童交流に取り組んでおり、堅粕小学校の4年生から6年生の児童85名が前津江小学校を訪問しました。今回は、4年生はヤマメの放流体験、5年生は大山ダム見学のプログラムが組まれ、6年生の29名と前津江小学校6年生の3名の計32名の児童が、シオジが原生する国有林（権現岳シオジ等遺伝資源稀少個体群保護林）を訪れました。

当日は当署から6名の職員が参加し、児童に同行して権現岳の登山口からシオジ林を往復しながら、シオジの原生林を保存していることや、森林の保水力、植生等について説明を行いました。児童は、シオジの樹肌や源流の水に触れるなど興味津々の様子で、森林のはたらきや植物の名前などについて職員に熱心



シオジの大木に触ってパワーを貰ったよ！

また、森林教室の機会を捉えて、林野庁ホームページに掲載されている森林と水の関係に関する教材や、森林や林業の知識を楽しく紹介する「お山ん画」と「リン子の絵日記」を配布しました。

今回の森林教室を通じて、特に都市部の児童にも森林の働きと大切さを理解してもらおうとともに、職員も児童とふれあい森林の機能等を説明する経験を得ることができました。この成果を、今後の業務運営にも反映し



ここから水が湧き出てる。

## 鹿島森林管理署 交通安全講習会

ていきたいと考えています。

【鹿児島森林管理署】9月27日に鹿児島中央地区安全運転管理協議会が開催したドライビングチャレンジ2019に鹿児島森林管理署からも若手職員の安全運転に関する認識を高めるために参加しました。

このイベントは交通事故防止対策の推進及び安全運転技能の向上を目的として開催されたもので、



見事優勝した片野・平生ペア

## 協定に基づく鹿児島大学 屋久島実習を実施

【屋久島森林管理署】九州・沖縄地方で林学系の専門コースを有する5大学と締結した「連携と協力に関する協定」に基づき、9月10日から12日まで鹿児島大学と連携して学生実習を実施しました。

農学部農林環境科学科2年生25名に対して、10日は安房貯木土場において、冒頭西純一郎署長から挨拶、入庁案内等の説明後、一口竜也森林技術指導官から屋久島の森林・

当日は中央警察署交通課長による法令講習、トコタ等自動車メーカーによるサポートカー安全装置の説明・体験、安全運転コンテストがあり、安全運転コンテストでは、当署の平生貴成、片野翔太のペアが他の安管事業所等を抑え第1位となりました。

安全運転コンテストは、自動車学校に設置されたコンテスト用のコースを、より安全・正確に早くゴールまで到達するコンテストで、2人1組によりそれぞれ2回運転して合計点を競うものです。第1位となった2人及び参加した職員は安全運転の重要性を再認識するとともに、安全運転の励行を誓い当日のイベントを終了しました。





安房貯木土場での講義の様子

林業の概要を説明、三國稔典地域技術官から屋久杉土埋木の生産・販売状況を説明しました。11日は国立歴史民族博物館の柴崎茂光准教授と宮之浦川上流域にある旧宮之浦官行斫伐所の事務所跡や集落跡、森林軌道跡等の林業遺産を案内し、屋久島林業の歴史等について説明を行い、その後、一口竜也森林技術指導官によりくくり畷によるシカ畷設置の実演を行いました。12日は屋久島地杉の加工・流通や材の活用状況を学ぶために、有水製材所、武田産業や屋久島町木造新庁舎等を訪問して各担当者から説明を受けました。当署としては、引き続き協定を締結している九州内の各大学や関係機関との連携・協力を強化していきます。



林業遺産の現地での講義の様子

化しながら、人材育成や研究フィールド提供など様々な取組を実施していく考えです。

## 鹿児島大学生3名のインターンシップを受入れ

【鹿児島森林管理署】9月10日と11日の両日、鹿児島大学農学部農林環境学科3年生の学生3名をインターンシップとして受入れました。

このインターンシップは九州森林管理局と鹿児島大学において締結した「農林水産省就業体験実習に関する覚書」に基づき実施したもので、今回受け入れた3名は大学で森林、林業、環境等を学んでおり鹿児島森林



被害木調査を体験

管理署でのインターンシップを希望したものです。初日は霧島森林事務所で国有林の現場第一線である森林官の役割等について片山恵介総括森林整備官から説明を受けたあと、園田泰夫森林官と同行して巡検・巡視業務の具体的な実施方法等を体験しました。また、午後からは立木調査の実施方法や松くい虫被害木の駆除等について説明を受け、実際に被害木の調査を体験しました。2日目には署会議室での刷新システムを操作しての復命書の作成体験、単人木材流通センターで木材市場での見学のほか、牧園森林事務所管内で実施している請負事業の現場で担当者から



現地研修の様子

森林整備事業（活用型、誘導伐）の監督職員の役割や具体的な実施方法等について学びました。今回参加した学生は林野庁や県など公務員への就職を志望しており、今回の職場体験を通じて改めて自分の就職先について確認していたことから、将来、林野庁職員として活躍してくれることを期待してインターンシップを終了しました。

## みやざき林業大学校の学生が既肥林業を学ぶ

【宮崎南部森林管理署】9月25日、みやざき林業大学校の学生21名が当署を訪れ既肥林業について学習しました。

みやざき林業大学校は、今年



センダン試験地での講義の様子

4月に宮崎県東郷町で開校し、1年間の研修の中で「即戦力となって活躍する未来のリーダー」を育成することを目的とし、林業の基礎知識を学ぶ一方、林業に必要な各種資格取得及び実習による測量・森林調査等の技術習得を目指しています。今回は、宮崎県南部の林業を学ぶため来署し、当署野邊忠司次長等が三ツ岩オヒスギ保護林、早生樹であるセンダンの試験地等の現地案内を行い既肥林業の歴史や、新たな取組についての説明を行いました。また、既肥林業の歴史を（株）川越本店の川越耐介氏が弁甲材の歴史、既肥林業の隆盛と衰退、今後の林業発展のポイントなどについて講義しました。



講義を受講した学生たちは、研修終了後は、森林組合、民間林業事業体、自営（林業経営）、製材工場等へと就業し、林業県みやぎの未来を支える人材になることが期待されています。

当署は、今後とも国有林のフィールドの提供を通して、宮崎県と連携を図り、人材育成に協力していきます。

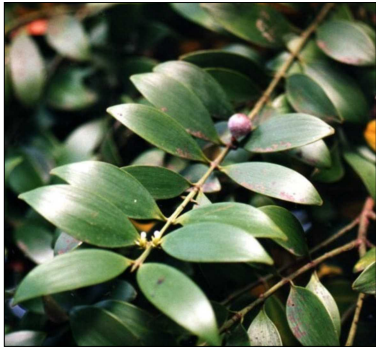
## 衛生講習・安全勉強会を実施

【鹿児島森林管理署】健康週間中の行事として10月3日に衛生講話、安全勉強会を実施しました。当日は午前中、庁舎敷地内に奉られている山神へ全員が安全祈願を行った後、健康管理医である前田内科クリニックの前田先生より「アレルギーと自動注射器について」と題しての講話を受け、午後からは、JAF鹿児島支部から講師2名を招き、「ロードサービスから学ぶ交通安全・車両点検」と言うテーマで講話と実際に車両を使用した車両点検のポイント等について学びました。

衛生講話では、蜂刺されや食品などによるアナフィラキシーについて詳しく講話をしていた



車両点検のポイントを学ぶ



屋久島、天草、種子島、五島と暖かい地方の山林で目にします。葉が広く対生で表面が濃い緑色ですので目につきます。対生でも観察すると互い違いに出る十字対生となっています。

都会の中の憩いの森  
多様な植物園の

## 人のうごき

職員でも初めて知った事などもあり、たいへん有意義な1日となり、今後も自らの健康管理、安全運転の励行により業務に取り組んでいくことを誓いました。

### 【異動】10月1日付発令

宮崎署都城支署森林技術指導官 福田貴史【都城支署】  
宮崎署都城支署総括治山技術官 谷口正美【治山課】

計画課経営企画官 中嶋丈貴【計画課】  
林野庁林政部林政課 谷端美菜子【総務課】  
林野庁森林整備部治山課 山田協【熊本署】  
林野庁国有林部経営企画課 伊藤翼【北薩署】  
佐賀署 遠山祐史【経理課】

### 【退職】9月30日付発令

中村英之【北薩署】  
（担当：総務課）

## 143 ナギ(マキ科)

これは樹木が、葉が重複せずに、たくさん日光を浴びるための工夫をしているのです。

昔、ナギの葉が嫁入りの鏡の裏に彫刻されていたそうです。葉を両側に力いっぱい引いても切れないことから、夫婦の縁が切れないことを願って彫刻されたそうです。また、このように切れないことからチカラシバともいわれています。

葉が広葉樹のように広々としてウと同じく裸子植物の針葉樹です。鹿児島県南部の古い民家は皮付きのままで床柱に利用されたのを見ることがあります。

黒光りする柱は落ち着きのある重厚な感じがしていました。名前は葉の形がミスアオイ科のナギ、すなわちコナギに似ているからつけられたそうですが、葉の形や色は似ていますが大きさはコナギの方がだいぶ大きいです。

ナギは熊本地方では珍しいことからお寺などに植えられており、立田山では、市街地から登る（南側・熊大側）遊歩道に直径10cmを超えるナギの並木を観察することができます。

森林インストラクター  
安染 行雄



先日、とある昔話を聞いた。椎葉村に住むご老人に「なぜこんな山奥に住んでいるのか」という質問をしたところ、「この村は春が線で上がってくるのが見える」という回答が返ってきた。そんな素敵な答えだと思った。そんな世界で一度は過ごしてみたいものだ。思えば福岡の平野で育った私は別に山に囲われて育ったわけでもなく、しかし、子供の頃から自然があふれる場所が好きだった。宮崎の南の方に引越したときは、地元ゆるく浅い山とは全然違う、隆々とした大きな山が連なっていて山がちがう！と興奮し周りの人に話したが反応が薄く、それから一人心中でニヤニヤしていた。そんな宮崎とさよならし、現在、熊本に住んでいるが、すっかりシティウーマンに成り下がってしまった。便利さの恩恵を受けまくっている。が、たまに山に行かなくてよいのだろうかという思いに駆られる。とりあえず、阿蘇に行きたいと思いついて、国有林野業務に専念しているところ